

デジタルとアナログのベストミックスを ～全国学力・学習状況調査の結果より～

めざましい科学技術の進歩によって、人工知能・AIやIoT、ロボティクス等の先端技術を、私たちの生活の随所で見かけるようになったばかりでなく、このコロナ禍は、私たちの意識や行動、社会経済に多大な影響を及ぼし、社会の変化を一層加速させるものとなっています。

まさに「予測困難な時代」に生きる子供たちは、今も、これからも、自分の人生を自ら切り拓いていかななくてはなりません。自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら様々な課題を乗り越え、持続可能な社会の創り手となれるよう、その資質・能力を育成することは、私たち教師の責務であり、その手掛かりとなるのが「確かな学力」と「学びに向かう姿勢」なのではないでしょうか。

どのように社会が変化しようとも、基礎的な学力や学びへの意欲が人生を支えることに変わりはありません。これらの指標となる「令和3年度全国学力・学習状況調査」の結果が先日、公表されました。結果は次のとおりです。

＜R3全国学力・学習状況調査 教科調査結果＞

		国語(%)		算数・数学(%)	
小	県	65	+0.3	72	+1.8
	国	64.7		70.2	
中	県	65	+0.4	58	+0.8
	国	64.6		57.2	

昨年度はコロナ禍により中止となったため、今年度は2年ぶりの調査であり、臨時休業をはじめとするコロナ禍の影響も懸念したところですが、小・中学校ともに本県が目標としている「各教科で平均正答率が全国平均以上」を達成し、今年度も全国上位水準の学力を維持することができていました。このことは、コロナに負けず、一生懸命学習に取り組み、着実に学力を身に付けている子供たちの頑張りはもちろんですが、日々授業改善に真摯に取り組んでいただいている県内の先生方の御努力のおかげであると捉えています。

一方、今回の調査では、全ての教科の基盤となる国語において、小中学校ともに「言葉の使い方」など一部の知識・技能の定着に課題が見られました。その背景には、臨時休業等の影響で、反復練習の時間を十分確保できなかった可能性がうかがわれます。また、子供の健全な成長や学力と密接に関係する学習意欲や生活習慣等を問う調査においては、「長時間ゲームをする子供の増加」や「地域の行事に参加する子供の減少」などの結果も出ており、生活面ではコロナ禍の影響が如実にあらわれています。

＜ゲーム時間について＞

○ 平日に、1日1時間以上テレビゲームをしている児童生徒 ※H30、R1…調査項目なし

	R3 (全国)	H29 (全国)	H28 (全国)	H27 (全国)	H26 (全国)
小学校	73.6% (75.9%)	52.5% (55.1%)	52.5% (54.6%)	53.4% (54.3%)	53.3% (54.4%)
中学校	77.0% (79.8%)	57.9% (58.5%)	55.4% (56.6%)	56.6% (57.4%)	54.4% (55.9%)

〈地域の行事参加について〉

○ 地域の行事に参加する児童生徒

	R 3 (全国)	R 1 (全国)	H 3 0 (全国)	H 2 9 (全国)	H 2 8 (全国)
小学校	66.2% (58.1%)	75.8% (68.0%)	63.6% (63.8%)	62.4% (63.9%)	72.2% (70.6%)
中学校	60.5% (43.7%)	65.4% (50.6%)	65.9% (59.3%)	63.5% (59.2%)	72.1% (65.8%)

また、本県がこれまでも課題としてきた「読書時間」についても、小・中学校ともに全国平均を若干下回っており、引き続き課題となっています。

〈読書について〉

○ 平日に、1日30分以上読書をしている児童生徒

	R 3 (全国)	R 1 (全国)	H 3 0 (全国)	H 2 9 (全国)	H 2 8 (全国)
小学校	36.1% (37.4%)	38.4% (39.8%)	39.3% (41.1%)	33.7% (36.5%)	33.4% (36.5%)
中学校	28.8% (28.9%)	28.0% (27.0%)	32.6% (30.9%)	28.6% (29.2%)	27.5% (28.2%)

読書活動は、子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。今後の教育活動において、どんなに最先端のデジタル技術を活用した学習が進んだとしても、頭の中で考えや思いを巡らせ、自らが物事の真偽や善悪などを見極める、アナログの思考・判断が必要とされることに何ら変わりはありません。読書はまさにアナログな学びです。読書を通じ、今後自分は、どのように社会に関わっていけばよいのか、どのような人生を送ればよいのかなどの思考や判断が育まれていくものと考えます。フェイスブックの創始者ザッカーバーグ氏は、「本を読むことで、我々は一つのテーマを十分に追求し、深く没頭することができる。今のどのメディアもかなわない。」と述べ、2週間に1冊は本を読む習慣にしていることを、当のフェイスブックに書いているそうです。

10月27日からは読書週間が始まります。読書に親しむ活動の充実により、読書の意義や効果を実感させることで、子供たちには豊かな心を育んでほしいと願っています。

最後に……

今回の調査結果について、各学校でも詳細な分析を行い、課題を明らかにして、全教職員が共通理解を図った上で、新たな学力向上計画の立案をしていただけたらと思います。

デジタル機器の使用の良し悪しは、使い方次第で決まります。使い方によっては、計り知れないほどの便利さを発揮する半面、大きな弊害をもたらすことは言うまでもありません。子供たちには、学習の際、自分に合った問題を選択する、繰り返し学習するなど、1人1台端末をはじめとするICTを効果的に活用させ、これらの課題を少しずつクリアしていきたいものです。そして、デジタルとアナログのベストミックスを図りながら、全ての子供の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現することにより、輝かしい未来を切り拓くことのできる子供たちを、チーム愛媛として一丸となって育てていきましょう。